

野菜・花きの営農情報



《5月中～6月上旬の技術対策》

令和4年5月15日発行
第1号
空知農業改良普及センター本所
Tel：0126-23-2900
Fax：0126-22-2838

【全作物共通】


- ①適正な土壤水分での耕起作業が重要です。また、暗きよ等との接続を前提として耕起前のパラソイラ、サブソイラを用いた処理は排水性向上に有効です。
- ②ハウス栽培やトンネル栽培では気温の日較差が極めて大きい時期なので温度管理に注意を払いましょう。曇天後のわずかな日照でもハウス内温度は、急上昇しますのでこまめな管理が必要です。
- ③ほ場準備が遅れた場合は、苗の馴化や適切な管理により老化苗にならないようにしましょう。
- ④ほ場が過湿状態で無理に機械作業を行うと、土壤の透排水性が悪化し、苗が活着不良となることから、ほ場を十分に乾燥させ、砕土性が高まるように作業を行いましょう。

【野菜（果菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
メロン	<ul style="list-style-type: none">・4月中旬定植「ルピアレッド」は、現在子づる12.8節となっています。・温度管理の目安 最高気温30℃以下、地温18℃以上確保します。 開花7日前～着果期・ネット形成期は、最低気温15℃程度（活着後12℃程度）を確保し、やや高めの温度管理で雌花を充実させます。 着果後果実肥大期は、最低気温をやや高め（15～18℃）にし、初期肥大を促します。・かん水管理 マルチ下の土壤水分を確認しながら、少量かん水をこまめに実施しましょう。本葉10枚頃に草勢が弱い場合、着果7～10日前頃のかん水が雌花の充実につながります。 5月下旬に縦ネット期（果実肥大期）に入る作型では、かん水を控えなければならないので、事前にやや多めのかん水を行いベッド内の水むらを解消しておきましょう。	<ul style="list-style-type: none">・乾燥状態が続くとハダニの発生が予想されます。発生状況に留意しましょう。  <p>【ハダニによる被害葉】</p>
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none">・5月上旬定植「キャロル10」では、定植後の高温・強風により、下位葉の葉先枯れ症状が見られますが、生育は順調です。5月15日現在、第1花房開花始となっています。・昼夜の温度差が大きい時期です。日中の気温25℃、最低気温12℃以上を目標に、ハウス換気等こまめな温度管理を行いましょう。・かん水はマルチ下の土壤水分を確認し、生育状況に応じて少量かん水をこまめに実施しましょう。	<ul style="list-style-type: none">・低温、多湿条件が続くと灰色かび病が発生するおそれがあります。こまめな換気を行いながら発生前に予防剤による防除を行うことが  <p>【灰色かび病】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルモン処理は日中を避け、涼しい時間帯に行って下さい。(高温時は、奇形果の発生原因になります。) ・奇形果の摘果やわき芽の摘心は晴天時の午前中に行い、傷口が午後には乾くようにしましょう。 	効果的です。
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> ・5月上旬定植「まりん」は、現在葉数3枚、草丈16.6cmとなっています。 ・ハウス内の湿度が急激に下がったり、温度が急激に上昇した場合、生長点が損傷する恐れがあります。急激な換気は避け徐々に換気を行いましょ。かん水は、土壌水分と生育状況に応じて行いましょ。葉色が薄い場合は、葉面散布を行いましょ。 ・ハウス内の温度は、日中25℃、最低気温15℃以上を目標に管理しましょ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス内が過湿状態の場合は、べと病などが発生しやすく、乾燥状態の場合は、ハダニが発生しやすくなりますので、発生状況に留意しましょ。
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗前半は、夜温を15℃以上確保するように保温しましょ。定植期に向けて徐々に管理温度を下げるよう管理し、定植の7日前から外気に馴らしましょ。 【ポット育苗】 ・育苗後半は徒長を防ぐため鉢ずらしをしましょ。 ・子づる2本仕立ての場合、定植の3～4日前に本葉3～4葉を残して親づるを摘心します。 【セル育苗】 ・老化苗にならないよう、ほ場の定植準備を進めましょ。 【定植に向けて】 ・定植1週間前にはマルチ張りなど本畑の準備をし、地温15℃を確保しましょ。 ・かん水は定植前日に十分に行いましょ。 ・定植は、植え傷みを防ぐため暖かい時間帯に行いましょ。植え込みの深さに注意し、根鉢を壊さないように植えます。植穴と根鉢の間に隙間があると活着不良となるため注意しましょ。 	
いちご	<ul style="list-style-type: none"> ・春どり(一季成り)いちごは、肥大期～収穫期に入っています。 ・日中の温度管理は、20℃前後を目標にしましょ。また、高温管理にならないように注意しましょ。 ・夏秋どり(四季成り)いちごは現在5～6葉展開中、定植後の生育は順調です。花房上げまでの株を養成するためにランナーと花房の除去を行いましょ。 ・乾燥、過湿に弱い作物です。朝の葉つゆの状況を見ながらかん水を行いましょ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、病気の発生は見られませんが、ハウス内の換気をこまめに行い、枯葉や病果を早めに取り除き、灰色かび病、うどんこ病の発生を抑制しましょ。 ・ハウス周辺の雑草が繁茂すると、ハダニ、アブラムシ、アザミウマ類の発生が増加するため、ハウス内及びほ場周辺の雑草除去と観察による適期薬剤散布に努めましょ。

【野菜（葉茎菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 定植作業は平年より進みましたが、少雨により生育は停滞傾向です。 生育が停滞しているほ場やクラストの解消されていないほ場では、中耕を実施し生育促進を図りましょう。 除草剤は生育状況を確認しながら散布するほか、手取り除草により雑草密度の軽減を図りましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> アザミウマ類の寄生やネギハモグリバエの食痕を確認したら防除しましょう。  <p>【ネギハモグリバエ食痕】</p>
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> 収穫開始の早いハウスでは収穫期間が30日を経過しています。ハウス栽培では、春芽収穫開始約30日後から立茎を行います。立茎の開始は、収穫量、萌芽数の減少、扁平、曲がり、細い若茎が増えてきた頃等を目安にします。 立茎候補枝を選ぶときは、茎径10～12mmを目安に1株あたり4～5本又は畦1m当たり12～15本を目安としましょう。立茎開始後も立茎枝以外は収穫します。 施設内は乾燥傾向です。かん水量が不足しないように注意しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ジュウシホシクビナガハムシの成虫は気温15℃以上で活発に飛び回り飛来するようになります。また、アザミウマ類は例年5月下旬頃から発生します。各種害虫の発生に注意し薬剤防除を実施しましょう。

【花 き】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
スターチス (シヌアータ)	<ul style="list-style-type: none">・4月上旬定植「トールブルー」では5月15日現在で、株直径48.4 cm、葉数70枚となっています。・ハウス内の温度変化が激しい時期です。晴天時の日中は高温にならないよう注意し、雨天や曇天日は湿度の上昇に注意し換気しましょう。《活着後の目標管理温度は、10～15℃》・摘心は、活着後、抽台茎が20 cm位になったら1回目を実施します。・株の直径が40～50 cm（隣の葉と重なる程度）になるまで、摘心します。・株が十分充実したら（定植後約45日で葉数45枚が目安）、出荷時期を考慮しながら、摘心を止めて抽台茎を立て始めます（最終摘心から採花までの目安：30～40日）。	<ul style="list-style-type: none">・摘心や摘葉など作物を傷つけた作業の後は、灰色かび病の予防防除を実施しましょう。

★農薬を使用する場合は、必ず使用基準を守りましょう★